

令和6年7月臨時記者会見

【説明】

〔東生駒土砂災害について〕

市長 令和6年6月28日に生駒市辻町で発生した土砂災害の状況とそれに対する対応や今後の見通しについて説明します。本日は、近畿日本鉄道株式会社にも同席して頂いています。

経緯については、6月28日金曜日の20時頃に、近鉄けいはんな線のトンネル上部の斜面で土砂崩れが起きました。これを受けまして21時55分に災害対策本部を設置するとともに、生駒市辻町の12世帯41人に避難指示を発令しました。今回特に被害が大きかったのは、家の中まで土砂が進入した5軒ですが、山側に接しているというリスクもあるということで、少し広めに12世帯41人としました。22時10分に避難所を開設して、1世帯4名が避難され、残りの方は実家や知人宅に各々避難されたと聞いております。

翌日の6月29日朝5時から近畿日本鉄道株式会社が土砂の除去、土嚢による崩落の防止等の作業を実施されました。

同日の20時から避難所の図書会館で被災者の方に、市と近畿日本鉄道株式会社も同席して、被災者の方に対する説明会を開催しました。結果として様々なご質問があり、3時間ほど説明をさせていただきました。

7月1日には、近鉄けいはんな線が始発から運転を再開し、市では午前9時から災害対策本部の会議を実施して、この週末の動き等を全部長と共有して、これからの対応についても整理をしたところです。

被害の状況ですが、12世帯に避難指示を出しており、その内5軒に対しては応急危険度判定を行い、家の中に土砂が入ってきて危険な状態であるということで判定において「危険」と判定をさせていただき「危険」という赤い紙を建物に貼っています。なお、人的な被害はありません。

断水・停電・ガス漏れ等はありません。土砂の流入により水道管からの水漏れが1軒ありましたが、止水栓で止まっています。

避難者の状況ですが、避難所への避難者が、7月1日12時時点で5世帯12名です。昼夜で若干増減はありますが、現在も図書会館には継続的に避難者がいる状況です。

復旧状況と今後の見通しですが、近鉄けいはんな線は開通していますが、現在も重機で土砂の撤去と土留め作業を継続しており、復旧にはもうしばらく時間がかかると聞いています。

応急危険度判定で「危険」とされた5軒以外の7軒につきましては、警報が解除されて、雨の状況が少し落ち着けば、状況を見ながら避難指示を解除していくことができると考えております。

一方で「危険」とされた5軒につきましては、家の中まで土砂が入っている状態で、土砂の撤去作業が続いており、いつ頃解除できるかということは申し上げられないような状況です。仮住まいの要望に対しては近畿日本鉄道株式会社で対応していただきます。

被災者の方からいつでも対応できる相談窓口の設置の強い要望がありまして、近畿日本鉄道株式会社で24時間対応していただけるホットラインを、29日から開設しております。

また、復旧作業では重機やダンプトラックが出入りするということ、また家の一部が破損して、防犯上の問題もあるということから交通整理と防犯のための警備員や責任者の方を近畿日本鉄道株式会社の方で配置していただく予定です。

市の支援策としては、避難されている方に必要な物資の提供と家の破損したところからの雨の流入を防ぐため等のブルーシートを提供しております。また避難されている方の健康状態に関しては、保健師や精神保健福祉士等によるきめ細やかなフォローをさせていただいております。今後にはなると思いますが、災害ごみにつきましても無償で対応したいと思っております。また罹災証明については速やかに発行できるよう準備しています。

被災された方の中には小・中学生も複数名いらっしゃいますので、避難所や学校等での心のケアについて、保護者も含めて直接コミュニケーションをとって学校の方で支援できることを聞き取り、対応するとともに必要に応じてスクールカウンセラーが対応するなど、被災したご家族へのケアは万全を期したいと思っております。

次に、被災者に対する情報提供についてですが、先ほど申し上げたように避難所におられる方、また別の場所におられる方も含めて、非常に不安な毎日を過ごしておられますので、市も避難所にいる職員等が随時被災者の方にきめ細やかな情報提供をしたり困り事を聞き取ったりというようなことは行っていますが、近畿日本鉄道株式会社には、定期的に復旧作業の進捗や今後の見通しなどをきめ細やかに情報提供をしていただくようお願いしています。

最後に防犯については、近畿日本鉄道株式会社の方でも対応していただいておりますが、警察に要請しました生駒市の方でもパトロールを行い、防犯面を確保したいと考えています。

参考までに、本日朝 6 時 32 分に大雨警報が発令されています。雨自体は明日の夜ぐらまでは断続的に続くということですので、引き続き警戒をしながら対応していきたいと思っております。

最後に今回被災された方に改めて心からお見舞いを申し上げますとともに、1 日も早く被災者の不安を取り除き、元の日常生活を取り戻していただきますように、市としても、被災者に寄り添ってきめ細やかな支援、情報提供等を行っていききたいと思っております。

近畿日本鉄道株式会社（以下「近鉄」という） この度は、当社の所有する山林から土砂が崩れるという形で、近隣の住民の方に大きなご迷惑をおかけしましたことを本当にお詫び申し上げます。

近隣の住民の方にこれからも誠実に対応していくためにご意見を聞きながら対応していくとともに、今後この様な事故が起きないように再発防止にも努めて参ります。

また金曜日の夜から日曜日まで、けいはんな線の運行も止める形になり、多くのお客様に対してご迷惑をおかけすることになりましたことにつきましてもお詫び申し上げます。

それでは現在の状況についてですが、6 月 28 日金曜日の 20 時頃に土砂崩壊を発見しました。

このとき運行する電車が土砂崩壊というのを未然に発見し、土砂崩壊地点の手前で電車を停止しました。一旦手前で止まり電車の運行はできないと判断し、乗車している約 200 名のお客様につきましては、20 時半頃に、奈良線の東生駒駅まで誘導して怪我もなく無事に当該列車から避難していただきました。

6 月 29 日の朝 5 時から、重機を搬入しまして、土砂の撤去、土留めの設置ということで復旧工事を開始いたしました。

今回は山林の表層が滑ったという形で近隣の住居、それから当社の線路上に土砂が流入したという事象になります。当該箇所というのが、トンネルの真上になりますので、すぐ重機が寄り付けず、車両車庫からクレーンで重機を搬入して土砂を搬出しています。

また住居側の方に流入した土砂につきましては、一部住居の北側の方に進入路を設けて順番に土砂を撤去しております。

土曜日の朝から作業を始めまして、日曜日の朝方は一時的に雨が降ったので一旦作業は中止したものの、土砂の方は昼夜連続して撤去を進めまして、住居の方に流入した2軒分の土砂は搬出することができました。

ただ、今日の朝方からまた強い雨が降り出しましたので、一時的に土砂撤去作業は中断しております。雨がやんだ段階で、引き続き土砂を撤去しまして、早急に住居側に流れ込んだ全ての土砂を搬出したいと考えております。

線路の方の土砂流入につきましては、昨日の夕方に土砂の撤去を完了しまして、今朝から列車運行を再開しております。

現状は応急復旧が完全に終わった状況ではありませんので、崩れたのり面に傾斜計という計測器を設置しまして、継続的に動きがないかというのを監視するとともに、トンネルの抗口で電車を一旦止めて安全を確認した上で電車を走らせるという措置を取りながら、列車運行を再開しております。

今日もまだ雨が降っていますので、作業の方は進んでいませんが、早急に応急復旧を進めまして、少しでも早く近隣住民の方が安心して元の生活に戻れるようになるように取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【 質疑応答 】

記者　今回は表層が滑った地すべりということですか。また、今回の災害の範囲と土砂の量を教えてください。

近鉄　表層が滑ったと考えていますが、現時点では「地すべり」と断定はしていません。現在土砂を搬出中ですが、立米数は把握できていません。実測はしていませんが広さは約50m四方です。

記者　亀裂の部分の幅はどれくらいですか。

近鉄　上部の亀裂は1mですが末端部分では3～4mずれています。

記者　現在電車の運行で一旦停止の安全確認をしているということですが、上下線両方ともですか。

近鉄　はい、現場に配置している係員は、異常が発生した場合、即座に列車停止をとるための要員です。列車乗務員（運転士）は、あらかじめ定めた一旦停止指示により、現場手前で一旦停止をします。現場に配置している係員は、安全を確認したうえで運転士に安全であることを伝えます。それをもって、運転士は運転を再開いたします。

記者　最初に土砂を見つけたのは、どちら方面の列車ですか。

近鉄　学研奈良登美ヶ丘方面です。

記者　今は、計測器を置き、動きがあれば列車の運行を止めるということですね。

近鉄　はい、3か所に設置しています。

記者　今回の土砂が滑った土地は全て近畿日本鉄道株式会社の所有地ですか。

近鉄　そうです。

記者　今回の場所は土砂災害警戒区域等の区域ですか。

副市長　違います。

記者　警察の発表では、被害を受けた住宅は6軒ですが、危険判定となったのが5軒ということは、6件が被害を受けている中で危険度判定をした結果が5軒であるということですか。

副市長 はい、そのとおりです。

記者 避難指示が出された 12 世帯 41 人の方は現時点の状況は。

担当参事 避難指示対象の 12 世帯のうち、避難所以外に避難されたのは 7 世帯です。そのうち、実家や友人宅に避難されている方が 6 世帯、土砂崩れ発生時に既に不在で、現在連絡を試みている方が 1 世帯です。

記者 避難されている方の健康状態はいかがですか。

担当参事 大きな怪我の報告はありませんが、避難生活が 4 日目となりますので、長期化するとメンタル的に不安を抱えられる可能性もあり、そういうところの対応も考えています。

記者 医師の診断を受けた方はいませんか。

担当参事 現時点で聞いていません。

記者 避難はいつまで続きますか。

近鉄 一時でも早く安全に生活できるように応急復旧対策を進めていますが、現時点では明言できません。

記者 今出ている大雨警報が解除されたら避難指示を受けた 12 世帯 41 人のうちのこの危険度判定を受けた 5 件以外の避難指示は解除されますか。

副市長 はい、加えて土砂がずれてこないのを確認してからです。

記者 避難指示が解除されてもまだ心配な方に対しては、避難所は利用できますか。

副市長 はい、提供し続けます。

記者 土砂はどのように崩れ、今後どのような対処しますか。

近鉄 トンネルの上部に平地があり、そこに山が前にずれてきた形で土砂が来ています。一方北側の近隣の住居の家の方に土砂が流入してしまったのと、大部分がこの平地の上で止まったのですが、一部が下の線路や車庫内に落ちました。まず土砂撤去工事として、この部分の土砂を撤去して、堤防として大型土嚢を積んでいます。同じく住居側についても、まず住居の方に流れ込んだ土を全部取り除きまして、この部分に同じように 1t サイズの土嚢を積むことで仮堤防みたいなものを設置することで、この山の更なるすべりを抑えようというのが応急復旧作業の内容になります。

記者 今後崩れてこないという判断について、専門家による調査をしますか。

近鉄 まず山自体の地質の調査の結果に応じて、必要であれば学者の意見も聞きながら、この山の恒久対策をどのようなすべればいいのか速やかに検討していきたいと考えています。

記者 土砂が流入した 3 軒の撤去は終わっていますか。

近鉄 家の外側に流れ込んだ土砂は全て撤去し、壊れた扉等にベニア板で養生しているという状況になります。

記者 危険度判定をされた 5 軒以外の家屋に対しても対応はされますか。

近鉄 今回住民の方々の意見に関しては、適時要望等を確認させていただいて、誠意をもって対応したいと考えております。

記者 今回被害を受けたエリアの宅地造成許可が出たのはいつ頃ですか。

副市長 平成 17～18 年度に宅地造成許可を取らずに個々の開発で建てたと聞いています。

記者 隣接の道路は私道ですか。

副市長 はい、そうです。

記者 今回崩れた山の少し北側に土砂災害特別警戒区域の土地を所有されているのに、今まで地質に

については把握されていなかったのですか。また、ドレーンや地下水の排水をされるような対策というのは、これまで取られてなかったのでしょうか。

近鉄 不法投棄とか、防草対策などの日常管理は行っていますが、当社の所有する山林が崩壊するというリスクを把握できなかったことに関しては猛省しているところです。

記者 現場は、盛り土ですか。

近鉄 現地は盛り土ではなく、実際これから地質調査をしますが、崩れた山自体も盛った土ではなくて、普通の山土であることは確認しています。

記者 以前に崩れた形跡はありましたか。

近鉄 把握はできていません。

記者 土砂元の範囲に関して、トンネル坑口からの高さは何メートルですか。

近鉄 トンネル坑口からの高さは14mです。

記者 今回は、地震とは違い土砂が撤去されれば居住できるということですか。

副市長 現状を見る限りでは、家屋に傾き等はなく、土砂が押し寄せているということなので大丈夫かと思われませんが、土砂を撤去した段階で再度確認をして判断したいと考えています。

(その他の質問)

なし

(了)